

岐阜経済大学創立40周年 特別企画 インタビュー

# 土屋 嶮理事長が語る、 現在そして未来の岐阜経済大学

Close up!  
Gifu Keizai University  
Magazine >>>  
GKU-NOW!

06 vol. 67  
JUNE, 2007

岐阜経済大学マガジン  
GKU Now!

## CONTENTS

- 2 Close up! GKU Now!  
「土屋 嶮理事長が語る、  
現在そして未来の岐阜経済大学」
- 4 学長メッセージ
- 6 40周年記念事業とイベントの紹介
- 8 岐阜経済大学40年の歩み
- 12 データで見る岐阜経済大学
- 16 GKU\_Voice
- 18 スポットライトGKU
- 20 キャンパスレポート



### 他大学に負けない 強みを持つことが大切

…… 創立40周年を迎えますが、率直にどのようにお考えですか？

**理事長** 「10年10年の節目を重ねること4回目ということ、この節目ということ自体が一番価値があることです。例えば、岐阜経済大学がこの10年間いかなることをやってきたか、そういったものを点検し、反省し、なおかつ次の10年に向けて考えていく良い機会です。この10年を振り返ってみると社会的あるいは経済的にも大きな転換期でした。そういった中で、岐阜経済大学がどう風に変ってきたか、どんなことをやってきたのか等、色々なことを検証しながら次の10年はどうなろうということを考えるちょうど良い時期ではないでしょうか。」

…… 現在の学生を見てどのように感じていますか？

**理事長** 「学生は学生らしくというのが以前はあったかもしれないが、この頃の学生は学生でもあり若者でもあり、その区切りがなくなってきていると思います。10年、20年前の学生は学生服を着たり、それなりに学生らしい服装をして歩いていました。今では、『多分学生だろう』『ひょっとするとどこかで働いている人かもしれない』と迷うことが多くなりました。学生は本来ならばずっと勉強しなさいと、バイトばかりするんじゃないと、僕らはそんな時代の中、育ってきました。ところが、この頃の学生は何があってもOKですよと、それだけ社会が良い意味においても悪い意味においても社会の構成員の一員として学生を受け入れる風潮が出てきました。」

行をはじめ、各企業において求められている人材はどういった人ですか？また、大学時代にどのような経験しておく必要があると思われますか？



**理事長** 「企業に入ってきて、即戦力になるような人材はいないです。企業側はそういった人材を求めてはいないでしょう。大学時代に学んだことや大学時代に身に付けたスキルを活かそうとする思い、自分の考え方を持っている、それは何かを言えることが大切です。」

各企業がその人のそういったところをしっかりと見て判断していくでしょう。そのために自分もしっかりとPRすることは大切で、学生時代に身に付けたスキルも、その過程での自分の取り組み方が企業に入った後の自らのモチベーションへとつながるものであると思います。『夢を持って企業に入ってきて、それをどう活かそうか』その気持ちを持ち続けることが大事です。それを実現していくチャンスはめったにこないけれど、立場が上になればなるほど、チャンスは巡ってくる、それをじっと待つことが大切ですね。」

…… 今後、この業種は伸びていくということを就職活動の参考にお伺いさせていただきたいのですが。

**理事長** 「銀行というのは、全企業を支援していくものです。ここが伸びるとは明確に言うことはできないが、ものづくりは、これからの日本の産業にとっても不可欠ですし、サービス業も私たちの生活の一環として深く広く求められる業種になります。大事なポイントとしては、①経営者がポリシーを持って経営しているということ、②企業の方針(長期ビジョン)が明確であること、③本業に徹する企業(どんなことでもいいから自分たちはこれをやるんだと決める)ということ。」

…… 大学がこれから50年、60年と存続するために必要なことは何ですか？

**理事長** 「他の大学に負けないものをつくることです。このことだったら岐阜経済大学、他の大学よりも秀でたものをつくること、他大学に負けない強みを持つことが大切です。成果をあげていくことで、学生のプライド、誇りを持つことにもつながるでしょう。しかしこれは、1年や2年でできるものではありません。その強みを年々、大学が一体となって引き継いでいくことが重要です。」



interviewer: 吉村 悠介、高橋 亜季 / photo: 杉山 寛之

# TSUCHIYA Takashi

← 学生は学業を修め、クラブ活動にも取り組み、暇そうにみえても忙しいはずですし、事実忙しくあるべきだと私は思います。」

…… 話はそれますが、私は大学入学後1年生の時から「まちなか共同研究室マスター倶楽部」において学生主体のまちづくりに取り組んできました。現在はそこで学生代表をしているのですが、活動の中で指導教授の鈴木教授からは、「学生が主体性を持って、まちの課題に直接触れ、その課題解決に向けての様々な企画を立案し、実施しなさい」と、いうことで、主体性と企画力が大切であるとされています。

現在、私たち2名(吉村・高橋)は就職活動の真っ最中なのですが、学生を受け入れるお立場から土屋頭取として大垣共立銀

## Gifu Keizai Univ. Special Interview

学校法人岐阜経済大学 理事長  
株式会社大垣共立銀行 取締役頭取  
**土屋 嶮**  
岐阜県出身 慶應義塾大学卒業  
昭和52年 株式会社大垣共立銀行入行  
平成5年 同行取締役頭取  
平成10年 学校法人岐阜経済大学理事就任  
平成17年 学校法人岐阜経済大学理事長就任